

お正月といえど！
手作りロイヤル神社の鳥居です！

入院中でも新年の雰囲気を感じていただき、気持ちの面でも前向きにリハビリへ取り組めるよう、リハビリテーション科では毎年新人職員が手作りの鳥居を制作し、お賽銭箱とおみくじを2階リハビリ室に設置しています。この取り組みは20年以上続くもので、先輩職員のアドバイスを受けながら、毎年心を込めて制作しています。

お賽銭箱はおはじきを入れています

掲載している緑色の鳥居の写真は昨年の様子です。巳年に合わせて鳥居には蛇のモチーフをあしらひ、ロイヤル病院のイメージカラーである緑を基調に仕上げました。今年は午年。どのような鳥居が完成するのか、ご来院の際は2階リハビリ室へお越しください。

本年も、患者さまに季節の楽しみをお届けできるよう工夫を重ねてまいりますので、どうぞご期待ください。

(文／理学療法士 間宮)

面会についてお知らせ

- ★ご面会日時：月曜日～日曜日／14:00～19:00
- ★ご面会時間：不織布マスクを着用し、30分程度を目安にお願いします。
- ★ご面会人数：4名まで(12歳未満のお子様はお控えください) ご友人の面会についてはご家族同伴をお願いします。
- ★ご面会受付：必ず病棟のサービスステーションにて面会カードをご記入下さい。

編集後記

新年あけましておめでとうございます。皆さまが穏やかな新春を迎えられていますことを、心よりお祈り申し上げます。1月号では、院長・看護部長より新年のごあいさつをお届けし、本年も地域に根ざした医療と看護に真摯に取り組む当院の思いをお伝えしました。

また、院内で行われたシャンソンショーでは、かつて当院で入院・リハビリを経て回復されたKEIさんが、希望に満ちた歌声を披露され、院内に感動をお届けいただきました。

さらに、当法人で開催されたWAMタウン学会学術集会の様子からは、より良い医療を目指す日々の研鑽をご紹介します。来年には当法人で在宅クリニックの開業も予定しており、その様子も今後「はなみずき」でお伝えする予定です。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

(文／総務課 前田)

TOKOROZAWA
LOYAL
WAM TOWN

はなみずき

vol.81

令和8年
1月発行

病院理念

私たちは安全で良質な医療、
心のこもった看護・介護、地域社会との連携を目指します。

この街で、安心、生きがい、感動づくりを WAMグループ学術学会を開催！

※WAM(ワム)=Welfare And Medical(福祉と医療)の略称です。

新年のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。

本年もよろしくお願い申し上げます。

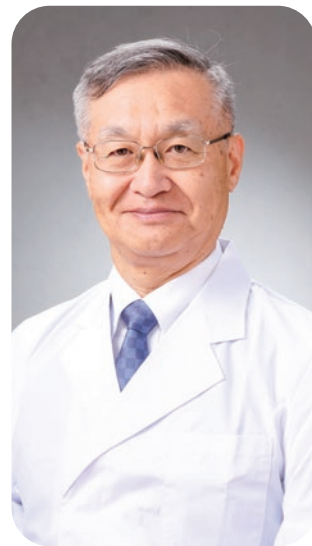
今年は午年であります。干支の中でも馬は前向きなエネルギー、成功、繁栄のシンボルとして親しまれてきました。2026年という新しい年のスタートに、挑戦、飛躍等ポジティブなイメージを重ねたい方にとって「午」はまさに理想の干支です。

啓仁会としまして、2月に西所沢在宅訪問クリニック開業と、新しい挑戦の年です。当院もしっかりとバックアップしてまいります。

所沢ロイヤル病院は、これまでと同様に、地域に貢献する医療を心がけてまいります。

救急病院で治療後の患者さんの受け皿として、在宅への橋渡しとして、地域に貢献してまいります。

少しでも、地域医療の役に立てるように度量区してまいりますので、皆様型のご指導、ご鞭撻をよろしくお願いいたします。



院長
金子 正二

あけましておめでとうございます。

今、社会は変化が激しく、将来の予測が困難な時代を迎えています。医療界も例外ではなく、社会保障制度の課題や医療人材の不足など、多くの困難に直面しています。しかし、私たちは、こうした課題に真摯に向き合いながら、地域の皆様の健康を守るという大切な使命を果たすべく、日々努力しています。

さて、昨年秋のドラマ「ザ・ロイヤルファミリー」では、一頭の馬を育てるために多くの人々がそれぞれの役割を担い、その「想い」が受け継がれていく様子が描かれていました。人が人を信じ、「想い」を次へとつないでいくこと。これは、私たちの医療の現場にも通じるものがあります。

当院では、一人の患者様に対し、様々な職種のスタッフが連携し、お互いを信頼し合いながら、患者様お一人おひとりの声に耳を傾け、その人らしい生き方を支えるという共通の「想い」を胸に、日々関わっています。これが私たちの「ロイヤルファミリー」です。

変化の激しい時代だからこそ、私たちはこの職員一人ひとりの「想いの継承」を大切に、患者様お一人おひとりに真摯に向き合ってまいります。本年も、職員一同、皆様に安心して医療を受けていただけるよう、より一層精進してまいります。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

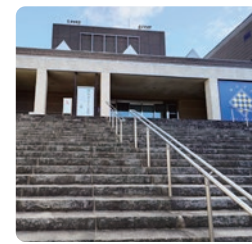


看護部長
吉村 紀代



～WAMグループ学術学会開催～

所沢市民文化センター ミューズ にて、よりよい安心と希望を届ける当院のチームケアを実現するためのグループ会議を開催しました。



私たちの病院は、患者様とご家族の皆様が安心して毎日を過ごせるよう、心を込めたケアに取り組んでいます。

感染への備えも欠かさず、スタッフが協力して清潔で安全な環境を守ること、大きな流行を防ぐ成果を上げています。さらに、働く仲間が長く安心して続けられる職場づくりを大切に、安定したケアをお届けできる体制を整えています。

患者様の「生きがい」や「自分らしさ」を支えるために、栄養の専門家やリハビリのスタッフなど、さまざまな職種が力を合わせています。たとえば「口から安全に美味しく食べる」ことを応援する取り組みや、トイレに自分で行けるようになるためのサポートなど、日々の生活に直結する支援を充実させています。

リハビリ専門の病棟では、ご自宅に戻った後も自信を持って暮らせるよう、会話や社会参加につながるグループ活動も行っています。

これからも、患者様とご家族の安心と希望をしっかりと支えられるよう、グループ内で一致団結し、スタッフ一同心を合わせて歩んでまいります。

(文／総務課 相馬)



クリスマスイベント、 シャンソンショー開催



当院のクリスマスイベントで「シャンソンショー」が開催されました。ショーの様子はZOOMを活用し、生演奏を聴きに来れない他病棟の患者様へもお届けできるよう工夫しました。出演されたのは、かつて当院に入院され、リハビリを経て見事に回復されたKEIさん。ギター伴奏はリハビリテーション科の佐久間さんが務めました。

シャンソンとはフランス語で「歌」を意味し、人生の喜びや哀愁を情感豊かに表現する音楽です。代表的歌手には「愛の讃歌」で知られるエディット・ピアフや、詩的な歌詞で人気を博したシャルル・アズナヴールがいます。

KEIさんは退院後、再び大好きな歌を披露できるまでに回復され、その歌声には力強さと優しさが込められていました。会場に集まった入院患者様は、耳を傾けながら自然と笑顔になり、「自分も頑張ろう」という前向きな気持ちを抱かれた様子でした。音楽の持つ力と、人の回復の歩みが重なり合うひとときとなり、心温まる交流の場となりました。

(文／総務課 相馬)

